みずほオートリース通信

2026年7月号

夏季の車内の危険性について

近年の夏は、最高気温が40℃以上となることも珍しくなくなってきました。日本気象協会では最高気温40℃以上の日を「酷暑日（こくしょび）」と名付け、極端な暑さへの注意喚起をし、熱中症予防を一層強化していますが、同協会の予測では今年の夏も酷暑に対する警戒が必要なようです。

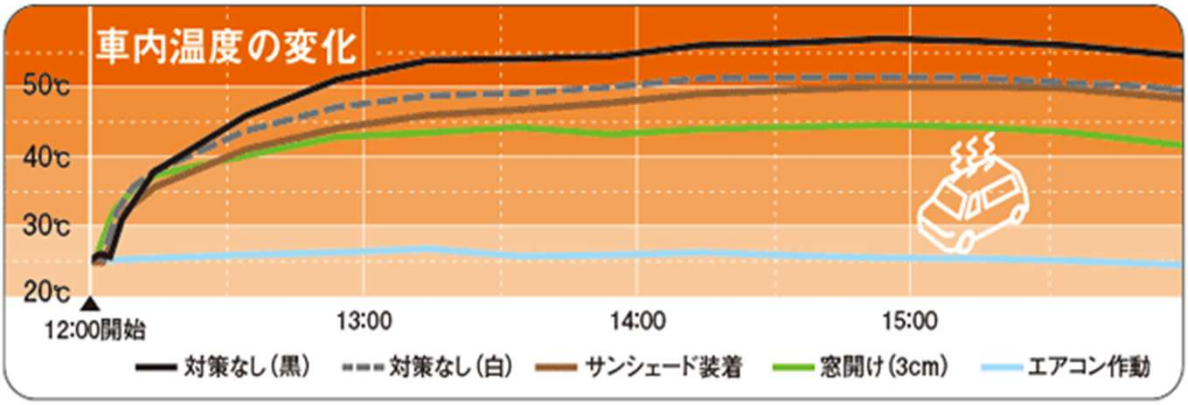
特に車内は危険な状態になり易いことを理解し対策が必要となります。

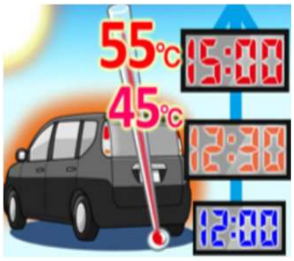
短時間でも車内に子どもや高齢者、ペットを残すことは絶対にやめましょう！

JAFが行ったテストでは、真夏の炎天下（外気温35℃）という状況下の車内温度は、エンジン停止後わずか30分で約45℃まで上昇しました。ちなみに窓を3cm程度開けた状態の車両では、30分後の車内温度は40℃と若干抑えられましたが、窓を開けただけでは危険回避は出来ないと考えた方が良さそうです。

では、フロントガラスの全面にサンシェードで覆った場合はどうでしょうか？直射日光を遮る効果はあるものの、30分後に40℃、1時間後には45℃近くまで上昇しており温度抑制効果はあまり望めないことが分かりました。

一方、エアコンを作動し続けていれば適温が保たれますが、燃料切れでエンジンが止まればエアコンも切れますし、もしかしたら子どもが意図せずエアコンを止めてしまうことがあるかも知れません。くれぐれも車内はエアコン停止後短時間で室温が急上昇し、熱中症や脱水症状を招く恐れがあることを忘れてはいけません。



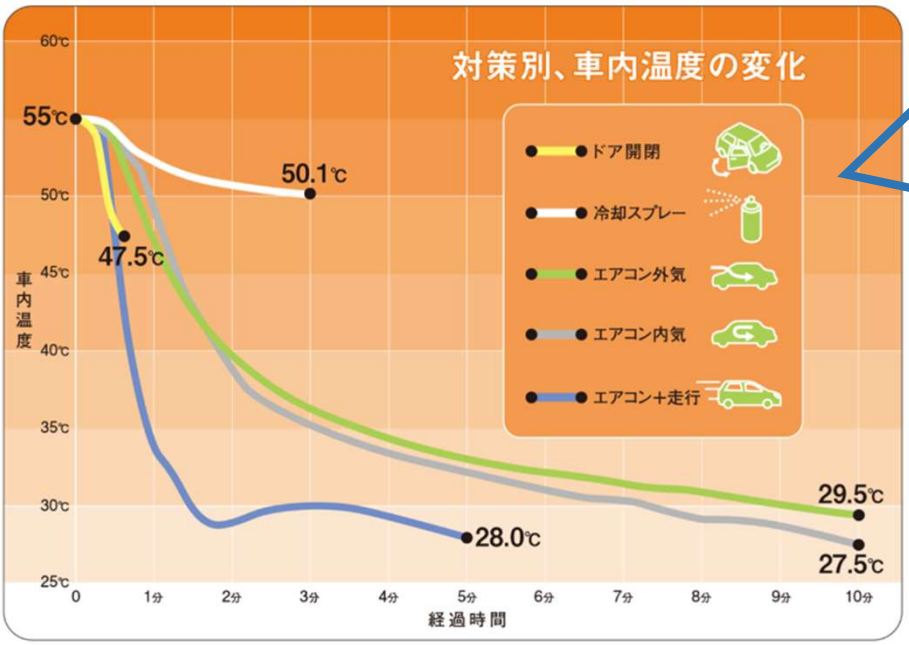


上記図の「対策なし（黒）・（白）」は、車体色を示しています

高温になってしまった車内温度を最も早く下げる方法は？

夏の炎天下で車を駐車すると車内が高温になり、しばらく車に乗れないことが多いです。
車内温度を最も早く下げる方法は何か？　5つの方法でJAFが検証しています。

① ドア開閉
エアコンは使わず、助手席の窓を開け、運転席のドアを5回開閉して熱気を逃がす
② 冷却スプレー
エアコンは使わず、冷却スプレーを10秒ほどシートに吹きかける
③ エアコン（外気導入）
窓は開けず、エアコン（オート、外気導入、設定温度Lo）
④ エアコン（内気循環）
窓は開けず、エアコン（オート、内気循環、設定温度Lo）
⑤ エアコン（外気導入）＋走行
窓を全開、エアコン（オート、外気導入、設定温度Lo）をつけて走行する



「エアコン＋走行」が最も早く温度を下げるようです。
窓を全開にしてエアコンをつけて（外気導入）走り出し、車内の熱気を出したら、内気循環で冷やすのが効率的で燃費にも良いでしょう！

エアコンのトラブル防止に、メンテナンスリースで定期点検を！

出典、画像：下記ウェブサイトを参照し、一部引用のうえ当社で作成
・一般社団法人日本自動車連盟（ＪＡＦ）クルマ何でも質問箱　真夏の炎天下の車内はどのくらい温度が高くなりますか？
https://jaf.or.jp/common/kuruma-qa/category-trouble/subcategory-prevention/faq250
猛暑時のクルマに関する注意点　https://jaf.or.jp/common/attention/heat
夏の駐車時、車内温度を最も早く下げる方法は？　https://jaf.or.jp/common/safety-drive/car-learning/user-test/temperature/lowering

みずほリースグループのＥＶソリューションのご案内

EV〇（マル）っと®

EV導入は単なるガソリン車両からの入替えではなく、お客様毎に最適な運用、充電管理、エネルギーマネジメント等が必要となります。
みずほリースグループでは「EV〇っとサービス（読み：イーブイ・マルっとサービス）」を通じて、お客様の課題に対してワンストップのサービスをご提供いたします！
詳しくは弊社営業担当者にお問い合わせください。

みずほオートリース株式会社

Copyright (c) Mizuho Auto Lease Co., Ltd. All Rights Reserved.